vol.456

mj

"馬は馬方、餅は餅屋、情報はマック"

THE MAC JOURNAL

三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2015年6月10日発行ラインナップ ◆

・菱肥会海外研修「クロアチア」視察
・北海道のコメ事情

菱肥会海外研修「クロアチア」視察

5月24日から5月31日の8日間に渡り、三年に一度の菱肥会海外研修が実施された。参加メンバーは全国菱肥会会長の豊田社長（豊田肥料㈱静岡県）以下11名。今回の行程はドイツのフランクフルト経由でクロアチアに入った。

クロアチア共和国（旧ユーゴスラヴィアから独立した国のひとつ）首都ザグレブは赤い瓦屋根の家が並ぶ18世紀～19世紀の中世街並みを其のまま残した雰囲気を持っている。その中でもカプトル地区の丘に建つ街のシンボル的存在の聖母被昇店教会の前で記念撮影を行った。首都ザグレブでもう一つ有名な建物「聖マルコ教会」。この建造物の特徴は屋根の瓦の色で紋章が描かれており、3つの紋章がひとつになっているのがクロアチア王国、そして城が描かれているのがザグレブ市の紋章となっている。これは1880年代に造られたモザイク屋根を今日まで手直しを続けながら現存おり、130年前から続く街並み等々を視察した。

農業視察として、第二次世界大戦のネレトヴァの戦いで有名なネレトヴァ川流域のデルタ地帯の一部でミカン農園を経営される大規模農場を訪問した。ちょうど施肥前の除草を兼ねた耕耘時期の最中にお伺いしたので、少し作業を手伝わせて頂いた。クロアチアの主要農産物は、とうもろこし・小麦等の穀物が多く、甜菜、ブドウと続く。我国との関係で意外と知られていないのがクロマグロの漁業が盛んとのことで、その大半が日本へ輸出されている。日本が購入するクロマグロ輸入先第3位がクロアチアである。そしてクロアチアと言えば国土面積が九州の1.5倍程度なのだが、世界遺産が7つもあるという国となっており、今回はそのうちの代表する2箇所を視察した。まず一か所目は16個の湖があるプルトヴィツェ湖群。総面積約200㎢の国立公園を視察した。深い森に映えるエメラルドグリーンの湖と、湖と湖を結ぶ滝が最大の見どころの景勝地となっている。その次に訪れたのは海上都市ドヴロヴニクの旧市街地を視察した。この街は海上要塞都市となっており、ヴェネツィア共和国と覇権を争った。「地上の楽園を求める者　ドヴロヴニクに来たれ　アドリア海の真珠」という言葉が残る有名な市街地だ。また、宮崎駿アニメ「魔女の宅急便」や「紅の豚」のモデルとなったと言われており、街並みや特にスルジ山から見下ろす景観はまさに映画の1シーンそのものだった。（次ページへ続く）

（前ページより続く）

そしてもう一つ。クロアチアはネクタイ発祥の地とも言われている。その昔、クロアチアの兵士が恋人や奥さんから無事の帰還を祈ってもらったそうだ。またスカーフは、フランスのルイ13世時代にクロアチア人の傭兵を雇っており、その傭兵たちは首のまわりにスカーフを結んでいた。これを見たフランス人が真似はじめたことから由来するという説があります

様々な民族・文化が交じり合い、周囲の大国に蹂躙されつつも独自の文化と伝統を守り続けたクロアチアの歴史を深く知る視察旅行となった。次回の菱肥会視察が企画された折には、是非振ってご参加ください。

北海道のコメ事情～北海道稲作の今昔

北海道の平成25年水稲作付面積は112,000ヘクタール、収穫量は玄米ベースで60万トンを超え全国1、2番目の生産量となっている。近年開発された極良食味品種「ゆめぴりか」や良食味品種「ななつぼし」はCMでご存知の読者の方も多いのではないだろうか。

かつて北海道産米は府県の良食味米に比べ食味が劣っていたため、品質評価が低く販売に不利な状況が続いていた。これを打破すべく1980年北海道水稲育種関係農業試験場（中央、上川、道南、北見）において良食味品種の早期開発プロジェクトがスタートした。現在までの約30年間で多くの良食味品種が開発され、現在北海道で作付される品種のほとんどを占めるようになった。代表品種を作付面積別に並べてみると平成25年は「ななつぼし」「きらら３９７」「ゆめぴりか」「ふっくりんこ」「おぼろづき」「ほしのゆめ」他（図１）となっている。また、平成26年食味ランキングでは「ななつぼし」「ゆめぴりか」「ふっくりんこ」が特Aランクを獲得している。なお、プロジェクト初期に開発された「きらら３９７」は業務向けに需要はあるが、今後は需要動向を勘案しながら、後年に開発された良食味品種に置き換えられるようだ。

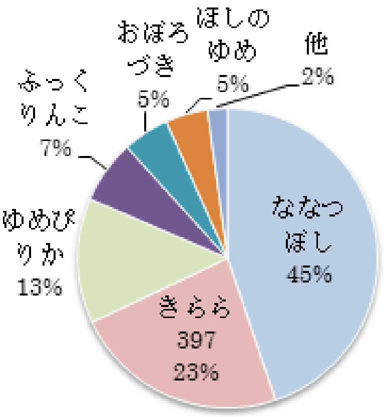

図 1）平成25年作付面積別

北海道稲作の現在

平成12年の作付面積は134,900ヘクタール、農家戸数は26,070戸に対し、平成26年の作付面積は112,000ヘクタール、農家戸数は13,800戸となっている。北海道と都府県の作付規模別経営体数を比較すると、北海道は5ヘクタール以上の経営体数が約60％を占めるのに対し、都府県では5ヘクタール以上の経営体数が3.5%となり、農地の集約が進んでいる。また、直播栽培も導入され平成12年は142ヘクタールであったが、平成25年は1400ヘクタールに拡大されている。北海道産の美味しいお米を皆様も是非ご賞味くださいませ。

クリオネ通信　“スプリングフラッシュ”

雪が融け、気温が上がってくると適切に管理された放牧地では急激に牧草が生長してきます。この現象をスプリングフラッシュと呼びます。草地がみるみる緑を帯び、栄養を多く含んだ草が育つ様は、長い冬を超えて春の訪れを感じる一瞬です。ただし、あまりにも急激に生長するので、牛に食われず無駄になってしまわないよう生産現場では様々な工夫がされています。

～イベント情報～ YOSAKOI ソーラン祭り　6月10日～14日まで

新緑の北海道にぜひ足をお運びください。（札幌支店）

関東地方も梅雨入りしました。これからしばらくはジメジメとしたスッキリしないお天気が続きますが、作物には恵みの雨になるでしょうか。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp　URL http://www.mcagri.jp